

# 稲作情報 (Vol.7)

令和5年7月24日  
宮城県石巻農業改良普及センター  
石巻地方米づくり推進本部  
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

**出穂期は7月28日頃の見込みです。斑点米カメムシ類注意報が発令されました。**

## 7月中旬の気象経過

7月中旬の気温は平年を上回って推移し、最高気温が30℃を超える真夏日が4日間ありました。日照時間はやや多く、降水量は平年を上回り、7/19には74.5mmのまとまった降雨がありました。7/22に東北地方は梅雨明けしました。

## 水稲の生育状況

＜減数分裂期は7月13～18日頃、草丈は長く、茎数はやや少ない。出穂は平年より6日早まる見込み＞

- 草丈は、69.8～87.5cmで平年比101～117%で平年より長い傾向です。
- 茎数は、404～561本/m<sup>2</sup>で、ひとめぼれ2ほ場平均で平年比96%で平年を下回り、ササニシキも2ほ場平均で平年比90%と少なくなっています。
- 葉数は、12.0～13.0枚で、ひとめぼれ2ほ場平均で平年差+0.6枚とやや多く、ササニシキ2ほ場平均で平年差-0.2枚とやや少なくなっています。
- 葉色は、ひとめぼれでは平年より1ポイント低く、ササニシキでは桃生ほ場では平年より濃いですが、稲井ほ場では平年よりやや淡くなっています。
- だて正夢展示ほでは、草丈・茎数・葉色とも平年並です。金のいぶき展示ほでは草丈が長く、茎数はやや少なめ、葉色は淡めです。
- 幼穂長は5月3～4日植えのひとめぼれとだて正夢ほ場で133～169mm、それ以外の5月14～17日植えのササニシキ・金のいぶきでは47～124mmとなっており、減数分裂期は7月13～18日で、7月末には出穂期を迎えるものと推定されます。
- 乾田直播栽培のササニシキは、草丈・茎数・葉数とも平年を上回っています。萌えみのりも、茎数増加が継続しており順調です。幼穂長は61～64mmと移植栽培と同様に減数分裂期を迎えており、7月末に出穂期を迎えると推定されます。

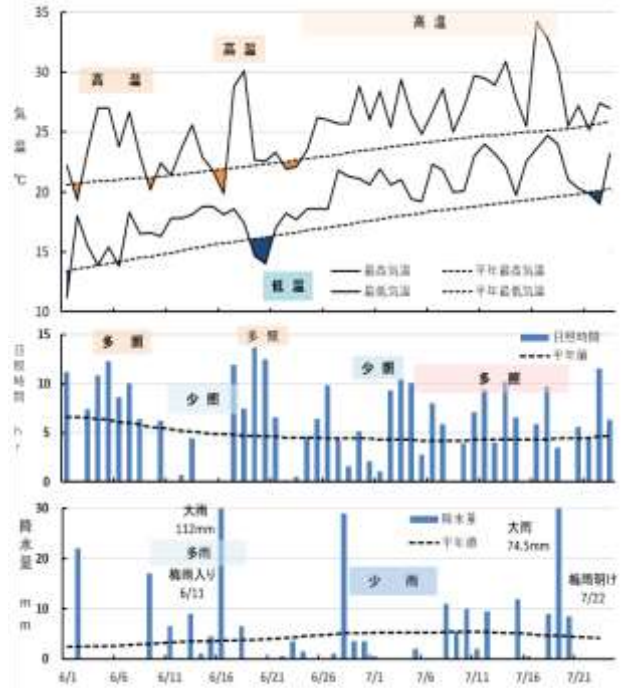


図1 田植後の気象経過(アメダス石巻)

表1 生育調査ほ等の調査結果(移植栽培7月20日現在)

区分・品種	調査ほ場	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉数 (枚)		葉色 (SPAD値)		幼穂長 (mm)		葉耳間長 (cm)	減数分裂期								
		前年比 (%)	平年比 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	前年差	平年差	前年差 (mm)	平年差 (mm)		前年差 (日)	平年差 (日)							
生育調査ほ	ひとめぼれ	石巻市広瀬	79.8	106%	112%	512	98%	96%	12.5	0.5	0.5	32.7	-1.3	-1.6	133	82	63	-0.8	7/13	-4	-5
		東松島市小松	82.0	114%	117%	524	117%	96%	13.0	0.6	0.8	35.4	-0.5	-0.4	169	109	110	4.9	7/13	-4	-6
		ひとめぼれ平均	80.9	110%	114%	518	107%	96%	12.8	0.6	0.6	34.1	-0.9	-1.0	151	96	87	2.0	7/13	-4	-6
	ササニシキ	石巻市桃生	71.1	95%	107%	561	85%	102%	12.2	-0.1	0.3	33.5	-0.5	1.9	47	-26	-3	-6.9	7/18	2	-2
		石巻市稲井	69.8	97%	101%	404	89%	79%	12.0	-0.3	0.1	34.1	0.2	-1.5	124	103	75	-0.7	7/14	-7	-6
ササニシキ平均		70.5	96%	104%	482	87%	90%	12.1	-0.2	0.2	33.8	-0.1	0.2	85	39	36	-3.8	7/16	-3	-4	
だて正夢展示ほ	東松島市小松	79.5	96%	101%	486	102%	102%	12.0	-0.3	-0.3	37.7	0.2	0.3	143	86	84	2.5	7/13	-4	-7	
金のいぶき展示ほ	石巻市蛇田	87.5	99%	109%	525	106%	94%	12.9	0.2	0.4	33.1	-3.7	-2.3	63	59	42	-12	7/17	-8	-7	

表 2 生育調査ほ等の調査結果(直播栽培 7月20日現在)

区分・品種	調査ほ場	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉数 (枚)		葉色 (SPAD値)		幼穂長 (mm)		葉耳間長 (cm)	減数分裂期							
		前年比 (%)	平年比 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	前年差	平年差	前年差 (mm)	平年差 (mm)		前年差 (日)	平年差 (日)						
直播栽培展示ほ 乾田直播 ササニシキ	石巻市須江	79.5	102%	122%	653	98%	108%	12.1	0.5	1.2	34.4	-3.3	0.4	64	52	58	-9	7/17	-9	-7
業務用多収品種展示ほ 乾田直播 萌えみのり	石巻市桃生	72.2	-	-	638	-	-	12.2	-	-	39.0	-	-	61	-	-	-10	7/17	-	-

注)表1,2とも平年値は前5か年の平均。

図2 ひとめぼれの生育経過

図3 ササニシキの生育経過

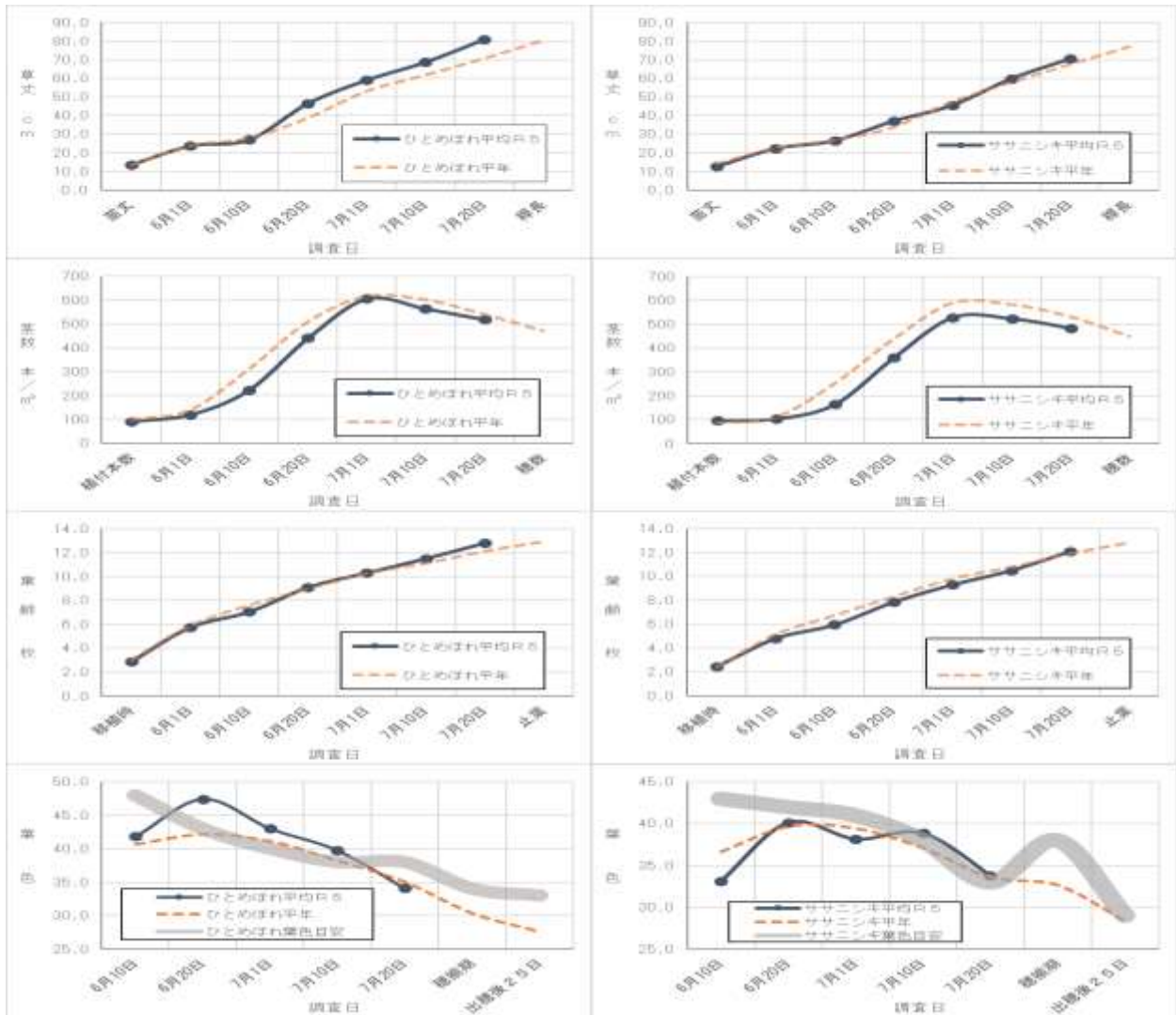


表3 生育予測モデルによる出穂期予測

	田植始期 (5%) 5/3	田植盛期 (50%) 5/10	田植終期 (95%) 5/21
幼穂形成期	7月2日	7月5日	7月13日
減数分裂期	7月12日	7月15日	7月23日
出穂期	出穂始期 (5%) 7月25日	出穂盛期 (50%) 7月28日	穂揃期 (95%) 8月5日
平年差	5日早い	6日早い	6日早い

生育予測モデルによる生育ステージの予測では、5/10田植えでは、出穂は7/28で平年(8/3)より5日早いと予想されます。(7/24現在。7/24以降は前5か年平均値で計算した。)



写真1 穂揃期に達しているほ場(早生種)

## 今後の管理

### 1 水管理 ～出穂後の高温は保水管理を～

- ・中干し後は入水と自然落水を繰り返す間断かん水が基本です。
- ・復元田など過繁茂となりやすく倒伏が心配されるほ場では、飽水管理（足跡の水がなくなったらごく浅めに入水）を行ないましょう。
- ・低温が予想されるときは、幼穂形成期から出穂・開花までの期間は低温による障害を受けやすいので、天気予報に注意し、日平均気温 20℃以下又は最低気温 17℃以下の低温が続くと予想された時は、幼穂を保温するために深水管理としましょう。
- ・出穂期前後の基本的な水管理は図のとおりです。出穂期は水を多く必要とする時期なので、浅水管理とし、その後は水を切らさないようにしましょう。

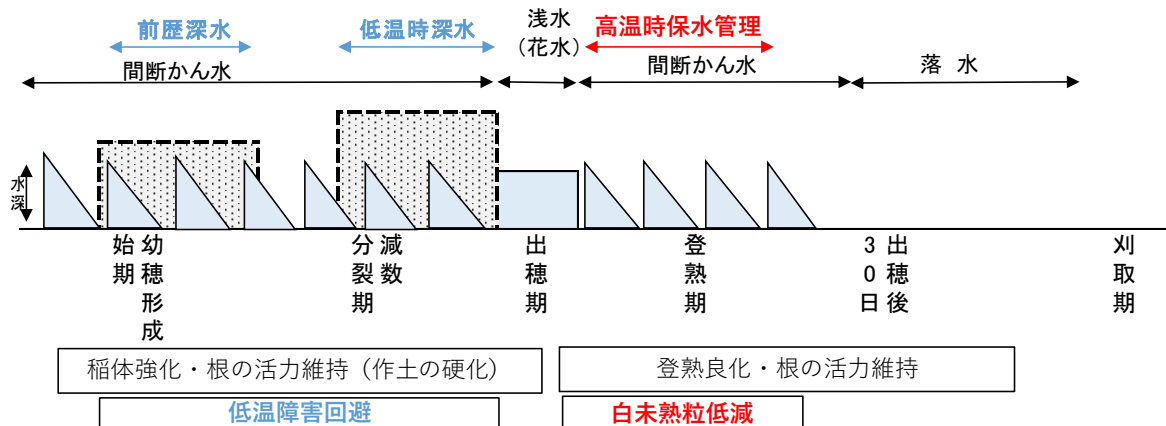


図 4 出穂期前後の基本的な水管理

- ・出穂後5～15日の最低気温が23℃以上が連続するような高温の場合、白未熟粒が多発し、著しい品質低下を招く危険がありますので、「保水管理」を行うことで日中及び夜間の地温上昇を抑えることが期待できます。  
※ 保水管理とは：湛水することなく、土壌を常に充分湿潤状態に保つ水管理です。十分な用水の確保ができず「昼間湛水・夜間落水管理」等が難しい地域やほ場では、「保水管理」が有効です。
- ・復元田や直播栽培等で倒伏が心配される場合や中干しが十分に実施できなかった場合には、飽水管理（溝や足跡に水がたまっている状態を保つ）を行いましょう。ただし、出穂後の飽水管理は、「田面が乾燥し始めたら直ちに入水」を繰り返し、稲に水分ストレスを与えないようにしてください。
- ・早期落水は、登熟不良や品質低下の原因となるので、出穂後30日を目安に、収穫作業に支障のない範囲でできるだけ遅くしましょう。十分な用水の確保ができない地域やほ場では、飽水管理を行うことで、田面の湿潤状態を保ちましょう。

### 2 追肥（詳細は稲作情報V○1.5及びV○1.6を参照してください）

- ・白未熟粒による品質低下は登熟初期の高温と穂揃期の窒素栄養不足が原因となっています。葉色が淡く、まだ減数分裂期（出穂15～10日前）で追肥可能なほ場では適切な追肥を行いましょう。

### 3 病虫害対策 ～斑点米カメムシ類の注意報が発令されました～

- ・斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ）の本田侵入始期は「やや早い」（7月第6半旬）、発生量は「多い」と予想され、「注意報第1号」が発令されました。今年度は出穂時期が早まる見込みですので、適期防除できるよう留意しましょう。
- ・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除が必要となります。イヌホタルイが除草できなかった場合は、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を

低下させることができます。

- 環境保全米等でやむを得ず1回防除となる場合には、穂揃後3～5日頃に散布してください。

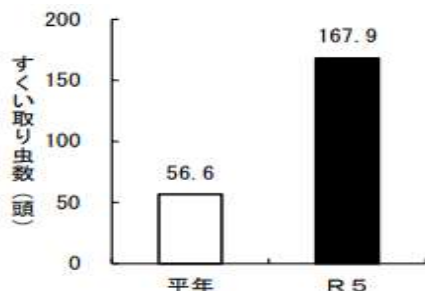


図5 草地におけるアカスジカスミカメ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)  
※イネ科植物が出穂している地点のみ集計

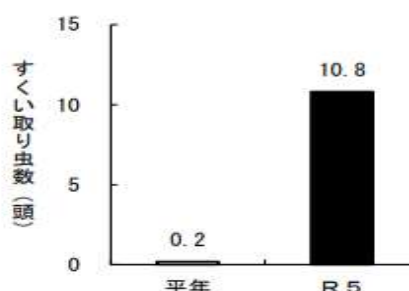


図6 草地におけるクモヘリカメムシ成虫のすくい取り虫数(7月中旬)  
※イネ科植物が出穂している地点のみ集計

- 県内の葉いもち発生量は「平年並み」、穂いもちの発生量は「平年並み」で全般発生期は「やや早い」8月第3半旬(8/11～8/15)と予想されています(7月24日 宮城県病害虫防除所発表)。アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM)では、7月15～17日及び7月19～20日にかけて、県広域で感染好適条件が出現しています。水田の見回りをこまめに行い、葉いもちの早期発見に努めましょう。

- 紋枯病の発生量は「やや多い」、稲こやし病発生量は「やや少」と予報されています。

### 東北地方1か月予報

(7月22日から8月21日までの天候見通し)

令和5年7月20日仙台管区气象台 発表※抜粋

#### <特に注意を要する事項>

東北太平洋側では、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

#### <予想される向こう1か月の天候>

東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北太平洋側	10	20	70
【降水量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

#### <気温の階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北太平洋側	10	20	70
2週目	東北太平洋側	10	30	60
3～4週目	東北太平洋側	20	40	40

### 高温に関する早期天候情報(東北地方)

令和5年7月20日14時30分

仙台管区气象台 発表

東北地方 7月26日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.9℃以上

東北太平洋側の向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、26日頃からは、かなり高くなる可能性があります。

熱中症の危険性が高い状態となります。屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保したりするなど熱中症対策を行い、健康管理等に注意してください。また、農作物や家畜の管理にも注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

～ 宮城県農薬危害防止運動実施中！(6月1日から8月31日) ～